

目 次

令和 6 年 9 月 1 3 日（金曜日）第 2 号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出 席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○一 般 質 問	大谷議員 -----	3 頁
	・ 津波避難タワーの設置を	
	高森議員 -----	5 頁
	・ わが町の移住・定住施策について	
	・ 町立病院の運営について	
○休会の決定	-----	9 頁
○散 会 宣 告	-----	9 頁

令和6年第3回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 令和 6年 9月13日（金）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開 議 日 時 令和 6年 9月13日（金） 午前10時00分

◎応 招 議 員（9名）

1番	辻	義雄	6番	高	森	功	治
2番	橋	本	收	司	7番	長	崎
3番	辻		紀	樹	8番	高	橋
4番	大	谷	敏	弥	9番	村	川
5番	北	川	佳	嗣	10番	柏	倉
						恵	里子

◎不応招議員（1名）

1番 辻 義雄

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木 幡 正 志	出 納 室 長	工 藤 貴 司
副 町 長	佐 藤 英 代	消 防 長	沼 田 明 宏
総 務 課 長	佐 藤 久	病 院 事 務 長	本 前 武 広
まちづくり推進課長	小山内 敏 洋	病院事業推進室長	加 藤 典 明
新幹線推進課長	岸 上 尚 生	教 育 長	近 藤 英 隆
税 務 課 長	田 中 浩	学 校 教 育 課 長	神 野 隆 之
町 民 課 長	田 野 憲 哉	社 会 教 育 課 長	米 代 剛
保 健 福 祉 課 長	岡 部 忠	選挙管理委員会書記長	佐 藤 久
産 業 振 興 課 長	小 川 洋	監 査 事 務 局 長	増 田 理 恵
建 設 課 長	上 野 訓	農 業 委 員 会 事 務 局 長	小 川 洋
水 道 ガ ス 課 長	中 里 博 也		

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	増 田 理 恵
事 務 局 主 幹	佐々木 学
議 事 係	川 村 界 斗

◎議事日程

日程第 1

一 般 質 問

◎開議宣告

１０時００分 開会

○議長（柏倉恵里子） ただいまの出席議員は９名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

なお、欠席届が辻義雄議員よりありました。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎一般質問

○議長（柏倉恵里子） 日程第１、一般質問を行います。質問通告書は事前に配付しておりますが、質問者は２名、質問件数は３件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員４０分以内と決定しております。質問時間の終了３分前と、終了時にブザーを鳴らしますのであらかじめご承知おきください。

それでは順次質問を許します。

大谷議員。

〔議員（４番 大谷敏弥）登壇〕

○議員（４番 大谷敏弥） 津波避難タワーの設置を。

日本海溝・千島海溝沿いを震源とする巨大地震対策の改正特別措置法で、避難施設や避難用道路の整備に関して、国からの補助割合が引き上げられる「特別強化地域」に長万部町は指定された。

海溝型巨大地震は、津波も想定されることから、犠牲者を一人でも減らす取り組みとして、万が一の時にはここに来れば大丈夫、との安心感を与えることもできる津波避難タワーの整備を検討してはどうか。町長の所見を伺います。

〔議員（４番 大谷敏弥）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 津波避難タワーの設置を。ご回答申し上げたいと思います。

昨年１月１２日の総務常任委員会におきまして、私は「財源の問題はあるが、何年かかけて町内４つの漁港に、津波避難タワーの整備計画を立てたい。」という趣旨のお話をいたしました。

担当課では、現在も整備に関して検討しており、国庫補助率のかさ上げや北海道の財政支援などにより地元負担は軽減されるものの、昨今の建築資材の高騰、労働人口の減少などによる人手不足や最低賃金の引き上げに伴う人件費の高騰による建設費の上昇はいちじるしく、また、整備後の維持管理にも相当の負担が生じるものと考えられるため、財政規模の小さな本町において、財政負担が大きなハードルとなっていることから、津波避難タワーの整備計画については、今後予定される公共事業と本町の財政状況を見極め、引き続き検討してまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 大谷議員。

○議員（４番 大谷敏弥） 何点か質問いたします。いつ発生してもおかしくない巨大地震。長万部町の想定最大の死者数は１，２００人と想定されています。少しでも被害を少なくする。また、町民の生命にも関わることなので、なるべく早期の避難タワーの設置を期待するものです。また、答

弁にもあったように、年々建築資材は高騰しています。そんな中、国の補助率は2分の1から3分の2と引き上げられました。そんなことも考慮すれば、早期の避難タワーの設置を望むものです。また、4基と言わずも何基かの避難タワーの設置をすることで、町民の不安を和らげるということもあるかと思いますが、町長いかがですか。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 全くその通りだと思ってます。ただ、先に設置した白糠町、それから近隣では蘭越町、白糠は先に建設したんだけど、今のデータでは使えない、新しくしなきゃいけない。ところが波の高さが、津波の高さがものすごく違って来たということで使えない。それから蘭越町も2億3,000万かけて作ったんだけど、収容人員が40人。ということで、何を見ても中途半端なんだよね。ただし、津波タワーの必要性というのは、どこの町村も認めてる。ただ、日中の段階で津波タワーに向かって行くのは可能なんだけど、夜間になってから津波に向かって避難するって考え方というのは、最近ちょっと議論が起きてきている。それはなぜかと言ったら、やっぱり危険な津波に向かって避難するって考え方はいかなものか。こういう考え方もあるので、そこは慎重に、例えばいくらでも漁港の近くでなければならないのか。少し離れた高台のほうが逆に効果的なのかということも考えなきゃいけないし。

今、国で言ってきてるのが、津波タワーだけでなく、日常的に集会場として使うくらいの機能を持たせなさいという話なの。だから津波タワーって階段で上がっていくよね、そこに集会場を機能を持たせろって言うてもなかなか集会場として使えるかどうかということも考えないといけない。だからやっぱりちゃんと検討して、例えば長万部町はどこに津波避難の場所を求めているか。今持っているのは例えば国縫であれば国縫のインターのターミナル、あの付近にNEXC北海道上道と連携をしながらやって、また、栄原地区の長万部川の上流を含めて津波が上る可能性がある所。それは高速に話して、栄原の金網を打ち破って上がってくださいと。ただし車線以外には出たらダメだよという話と、やっぱり今の神社下であったり、様々な所の避難場所は作ってあるので、海岸線から避難をさせると言うことは、日中はある程度可能なの。夜間になってくるとかなり停電になったりして厳しい状況が生まれてくる。だからそういうこと考えると、今津波タワーというのはやる必要はあるけれども、どこにどういう形で設置して、日常も可能な集会場に使いなさいという話になってくると、段数の少ない津波タワーでなければダメだ。例えば10メートルも15メートルもある所に集会場作って、それを階段上がって行くというのはなかなか大変だし、また、定員も例えば蘭越で40人しか使用できないとしたら、そこへ押しかけていった人方、40人しか定員がないとしたら、残った人方どうするんですかということもなってくるので、長万部全体で津波の避難のあり方、これを考えながら、じゃあ一番低い海岸線の避難場所をどうするかということに対しては、津波タワーの必要性というものはある。このことについては認めていかざるを得ないんだけど。

ただ段数も集会場の施設も作れってなると、維持管理の問題が相当かかってくる。日常の維持管理だけでも。これは厳しいかなと。普通の会館の管理だけでも大変、それを日常的に使える場所として示しなさいということになると厳しくなってくる。だからそういうことも含めて、やらないってことではなくて将来の津波避難タワーとしてやるという方向性については、今でも検討の課題にしてあるということです。よろしくお願いします。

○議長（柏倉恵里子） 以上で大谷議員の質問を終わります。

高森議員。

〔議員（6番 高森功治）登壇〕

○議員（6番 高森功治） 私の質問は2問であります。

1 問目、わが町の移住・定住施策について。長年にわたり行われている、長万部町の移住・定住施策は毎年のように予算がつけられておりますが、今までにどのような効果が得られたのか。また、最近注目されつつあるワーケーションについてはどうお考えか。町長の所見をお伺いいたします。

2 問目、町立病院の運営について。町立病院はわが町唯一の病院であるが、道内他自治体病院同様、赤字経営が続いている。今後、人口減少も進み、外来・入院患者の減少も見込まれる中、どのような運営を目指すのか、町長の所見をお伺いいたします。以上です。

〔議員（6 番 高森功治）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） まず最初にわが町の移住・定住施策について、お答えをさせていただきます。

明確な成果をご説明できるものとして、「地域おこし協力隊」の取り組みは大都市部から地方へと新しい人の流れと、地域の活性化を目的とした活動で、移住・定住に繋がる実績をあげており、平成 28 年度以降に 8 名の隊員が活動し、現時点で 5 名が定住しております。

また、ワーケーションにつきましては、ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた、リゾート地や自然環境の豊かな場所で、普段の職場とは異なる環境で仕事をしながら、同時に休暇も楽しむ新しい働き方と理解しており、観光業の活性化や関係・交流人口の増加による地域経済の活性化に加え、将来的な移住・定住の促進に繋がる効果があるものと認識しているところであります。

長万部町は、自然豊かな環境と温泉地としての魅力を有している面ではワーケーションに適していると思われませんが、ワーケーション支援を成功させるためには、必要なインフラ整備や効果的なプロモーション、地域や地元企業との連携が重要です。これらの要素について、先行事例を参考にしながら、検討してまいりたいと考えております。

次に町立病院の運営について、お答えをいたします。

町立病院につきましては、町内唯一の病院として、また、救急告示病院として、24 時間、365 日、町民の命と健康を守るため、その役割を担っております。公立病院が置かれた環境は、非常に厳しいものがあり、地域の人口が減少する中でも、新型コロナウイルスなどの新興感染症への対応や、救急医療の提供、高額な医療機器の確保など、民間病院では採算の取れない分野も担わなければならない状況にあります。

これらを踏まえ、本年 3 月に国から示されたガイドラインをもとに「長万部町立病院経営強化プラン」を策定し、在宅医療の充実や、他の医療機関との役割分担・連携強化など、地域医療の充実に向けた取組を進めております。

また、現在の町立病院の形態を、国民健康保険直営の病院とすることにより、新たな助成が受けられることから、経営改善の一環として、令和 7 年 4 月の国保病院化を計画しているところであります。

なお、病院の経営効率化に向けては、安定した医療の提供が重要であることから、引き続き常勤医の確保に努めるとともに、病院の置かれた厳しい状況を職員間で共有し、地域唯一の病院としての役割を果たしていきたいと考えております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6 番 高森功治） それでは何点か再質問させていただきます。令和 5 年度の決算審査がまだ終わっておりませんので、大まかな数字、または予算の数字でいいのでお答えいただきたいん

ですけれども。地域おこし対策費は昨年いくらだったのかお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまのご質問についてお答えいたします。令和5年度の決算資料から、総務費、企画費、地域おこし対策費の額としましては、決算額で630万9,308円ということで報告してございます。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 今のは地域おこし対策費でありますけれども、このほかの移住・定住施策の予算というのは何かありましたか。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） 移住・定住施策への予算というご質問なんですけれども、総務費の企画費の中から支出してございまして、おそらく旅費負担金、需用費などもございますが、そこから企画費の中に溶け込んでおりまして、なかなかこれが移住・定住にかかっている経費ですとご説明しづらいのですが、明確な経費でわかっているものとしては、移住パンフレットの製作、去年はこれで2万9,700円支出している。これは明らかに移住・定住用に使った経費ということでご説明できるかと思います。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 答弁書では、明確な成果を説明できるものとして載っているんですけれども、移住・定住のそのほかの成果としては、何かほかにごございましたか。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） 移住・定住の明確な成果というご質問なんですけど、なかなか移住・定住だけを示す、成果を示す指標というのがなかなかございまして、最終的には人口が増になれば、移住・定住増なんだろうということは言えるかと思うんですが、ご存じのとおり町の人口はどんどん減ってございます。直接これが移住・定住だというのはないんですけれども、町で令和2年に作成しました人口ビジョンの中で、社会増減という項目がございまして、転入数から転出数を引いた増減なんですけども、これは統計取ってからは毎年100人ずつくらい転出がずっと続いているんですが、近年ちょっと傾向変わってまいりまして、2015年には、平成27年なんですけども、プラス35名、また、2017年（平成29年）には社会増減ゼロ名。2018年には、平成30年ですけどプラス57名など、社会増減では増えているというデータもございます。ただこれは外国人労働者や新幹線工事の関係や、理科大の生徒さんたちの人口増の分などもございますので、移住・定住がこのうちどれだけなんだというのはなかなかご説明しづらいところではありますが、参考までにそういった数字をご報告させていただきます。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） この移住・定住を具体的に、今までどんなことをやってきたのか、というのをちょっとお聞きします。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） 町の政策、多岐にわたってございまして、なかなかこれが施策だというのが言いづらいところなんですけど、私の課では移住・定住パンフレットを作成してございまして、これに移住者向けの町の支援施策をご紹介します。その中で代表的なものをご紹介しますと、子育て支援として、タイトルだけですが保健医療保育サービスであったり、奨学金制度、また住まい支援としましては家探しウェブでの不動産情報の提供と。また、就業支援としましては

移住支援金などのご紹介をしているところでございます。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） ではワーケーションについてちょっとお聞きしたいんですけども、道のほかの自治体でも、ワーケーションの取り組みというのは今徐々に進んでいるところなんですけれども、長万部町も新幹線ができる町として、このワーケーションに取り組んでいく必要があると思うんですけども、一気に何かやるとかそういうことはできないと思うので、徐々にやっていければいいと自分は思っているんですけども、その辺町長はどうお考えですか。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今年６月に担当課の職員が、長万部町職員にアンケート調査やって、全体的にかなり有効なアイデアが寄せられてきて、来年度に向けてまだ予算の編成も何もしていないんですけども、新幹線でもって公営住宅を取り壊して、仮設に入居したことが、今新しく公営住宅ができて、もう転居してきている。やっぱり空いた部屋をなんとか、空いた住居をなんとか利用したいということで、建設課にも話をして、２，３棟残しておける場所を選定するようという話もさせていただいて、そしてやっぱり拠点作りがなければ、例えば、長万部来て住まいづくり、住まいに泊まってひとつの長万部の町を散策して、自分たちが長万部来て定住したら何ができるのかということも含めて考えるための施設を検討したいということで、まだ予算の内容をきちっと整理はしていないんですけども、できれば来年度に向けて３棟くらいは移住・定住者住宅としての確保、その中にはまた今公営住宅に移った人方が使ってた場所なんで、内装がどうなってるの、生活するためには生活用具も入れなきゃいけないということで、かなり予算の計上にはシビアな予算計上になるかと思うんだけど、基本的にはやっぱりそういった定住の人方が来る、お試し住まいがなければ、そこからスタートしていけないということもあるんで、そこら辺については来年度にかけて今後新しい令和７年度の予算編成に向けて、整備できるかどうか検討していきたい、そう思ってますのでよろしくをお願いします。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） かなり前向きな答弁をいただきましてありがとうございます。

２問目にいきたいと思います。まず前提として質問をちょっといたしたいんですけども、今の町立病院の開業時期と、どれくらい老朽化しているのかというのをちょっとお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 本前病院事務長。

○病院事務長（本前武広） お答えいたします。現在の病院の建物なんですけど、昭和５７年の１２月に竣工いたしまして、翌年の５８年１月に診療を開始しております。老朽化の状況なんですけども、竣工から４０年以上経過しておりますので、また海に建っているということもありまして、かなり老朽化が進んでいるんですけども、空調の故障ですとか、排水関係の詰まり、あと雨漏り、そのほか塩害の影響なんかもありまして窓の開閉もしづらいと、そのような状況になっております。また建物本体のほかにも、建物の付帯設備についてですとか、医療機器、厨房機器などについても年齢経過しておりますので、かなり老朽化が進んでいると、そのような状況になります。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） わかりました。来年４月の国保病院化を目指すということなんですけども、こうなった場合、病院名というのは変わるのか変わらないのかお聞きします。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 町立長万部病院です。変わりはないです。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） 病院名は変わらないということなんですけども、その国保病院になることによってほかに変わることに、それからメリット、デメリットがあればお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 本前病院事務長。

○病院事務長（本前武広） 町立病院が国民健康保険病院になった場合、職員の身分ですとか待遇は変わることはありません。また、国保加入者以外の方の診療も、これも当然できますので、病院の利用に関しての影響が生じることはございません。法律的には従来の法令であります地方自治法のほかに新たに国民健康法に基づく保険事業を行う施設として位置づけられることとなりますので、自治体病院と、あと国保病院の両面の顔を持つ病院となります。その結果、現在措置されております地方交付税ですとか、国の各種助成のほかに新たに国民健康保険の助成が受けられるということになります。デメリットは現段階では見当たらないんですけども、加入する団体へ年会費、これは支払わなければならないこととなります。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） 国保病院になると新たな助成が受けられるということなんですけど、具体的な内容をお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 本前病院事務長。

○病院事務長（本前武広） 新たな助成なんですけども、町内に占める国民健康保険の加入者の方の率、それによって受けることができる助成というのは変わってくるんですが、施設のＩＴ化、機械化に係る助成、電子カルテの導入ですとかに関する助成、そのほか医師・看護師の確保に要する費用、あと救急患者の受け入れ体制を確保するための費用などが新たな助成の対象となってまいります。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） 国保病院になるための必要な手続きをお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 本前病院事務長。

○病院事務長（本前武広） 国保病院になるためには、２本の条例の改正が必要になってまいります。１つ目は「長万部町国民健康保険条例」の改正で、病院事業を実施する旨の規定の追加が必要となります。２つ目は「長万部町公営企業の設置等に関する条例」の改正で、病院事業が国保条例に基づく施設であること、それと国保条例に定める保険事業を行う施設であるという旨の規定の追加が必要となってまいります。令和７年、来年４月の国保病院化に向けては、本年１２月の町議会定例会に条例の改正案を提出させていただきたいなというふうには考えております。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（６番 高森功治） ほかの医療機関の役割分担、連携強化の取り組みを進めていくとのことなんですけども、その内容を詳しくお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 本前病院事務長。

○病院事務長（本前武広） 他の病院との連携ですが、人口の減少ですとか高齢化が進行がいちじりしい地方におきましては、医療従事者の確保はより厳しさを増しております。限られた医療資源を有効に活用して、持続可能な医療体制を確保するためには、ほかの医療機関との役割分担や、連携の強化が一層重要となってまいります。長万部町が属しております北渡島檜山二次医療圏では、八雲総合病院が地域の中核病院として急性期の医療を担いまして、周辺の病院が回復期・慢性期の医療を基本に軽度の救急医療を担うという、そういう医療構想が進められております。今後も北海道が策定する地域医療構想に沿った役割分担を進めまして、持続可能な地域医療の提供体制の確保に努めていきたいなというふうには考えております。

○議長（柏倉恵里子） 以上で高森議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これにて一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（柏倉恵里子） お諮りいたします。９月１７日から１９日は決算審査特別委員会の付託案件審査のため休会としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって、９月１７日から１９日は休会とすることに決定いたしました。

なお、本会議は９月２０日午前１０時から再開いたしますのでご承知おき願います。

◎散会宣告

○議長（柏倉恵里子） 本日はこれにて散会いたします。ご苦労様でした。

１０時３０分 散会
